

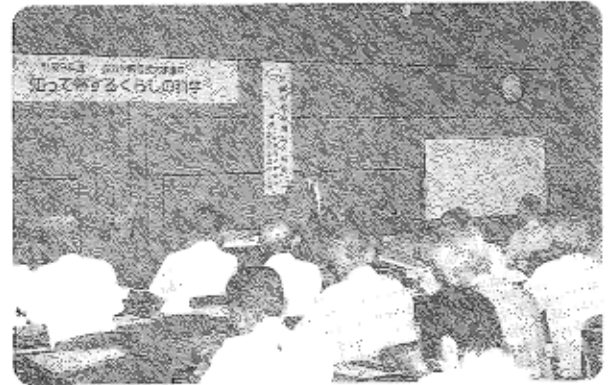
# TOPICS

## ★生涯学習県民大学

平成9年度生涯学習県民大学の「知って得するくらしの科学」講座を、今年も7月22日から8月11日まで3週間にわたり、当センターで開講しました。生涯学習ブームを反映して申込が多く定員の1.5倍の45人の参加となりました。

今回の講座では、外部講師7名による「生きた化石オウム貝の謎を追って」、「彗星にまつわる話」、「新聞製作の現状と将来」、「溶接今昔」、「割りばしと厚紙でつくるアニメーション」、「麴のはなし」、「樹木の健康診断」、所内講師7名による「手びねりによる小工芸品製作」、「くらしの中の味と香り」、「水を科学する」、

「電磁波のはなし」、「くらしと金属化学」、「金属の削り方いろいろ」、「住まいと木材」の14科目について講義や実技が行われました。



## ★ 優良研究・指導業績の表彰



現企画情報部の水元部長が、全国食品関係試験研究場所長会から優良研究・指導業績の表彰を受けました。この表彰は食品関係産業の発展に大きく寄与した優れた研究・技術成果及び指導実績に対して与えられます。

今回の表彰は、勘と経験に頼った伝統的な発酵食品（味噌醤油、米酢や漬物）の製造や品質管理

などに科学的（微生物学的）な裏づけを加えることにより、安全で、効率的な製造法を確立するとともに、品質向上や多様化が図られるようになったことに対するものです。また、県商工会連合会の技術指導員として「村おこし」事業に参画して、ナリ味噌、パパイヤ漬、菜の花漬やもずく蕎麦等数多くの地域特産品の開発、商品化に尽力したことが評価されたものです。

## ★ 地域産学官共同研究事業推進会議の開催

当センターでは本年度から3年間にわたり、UMAT㈱、アロン電機㈱の地元企業(産)、鹿児島大学、茨城大学(学)及び工業技術院九州工業技術研究所(官)と共同で地域産学官共同研究事業を行います。研究内容は「強誘電体インテリジェント材料の研究開発」で、新しい半導体メモリー素材とされる強誘電体材料の薄膜化技術の開発と応用研究に取り組みます。

当センターでは中核技術開発を行い、強誘電体セラミックスの薄膜化技術の開発を目指します。また、参画企業は応用技術開発を受け持ち、薄膜用ターゲット材料の開発やインテリジェント材料、各種センサーなどへの応用を手がけることとなります。さらに、大学等からは研究指導や支援を受けることとなっています。

8月25日には第1回推進委員会が開催され、技術開発に必要な理論・技術・装置、現段階での研究進捗状況や問題点、開発後の用途や将来の展望等について、議論が行なわれました。



この研究に関心をお持ちの方は当センター企画情報部までご連絡ください。お待ちしております。

## ★ 海外研修生、工技センターで技術研修

当センターでは7月22日から約半年の予定で海外の青年技術者の実地研修を行っています。これは鹿児島県から委託を受けた(財)鹿児島県国際交流協会の事業で、当センターでは1名を受け入れております。研修生は、ツルゾノ・エリカさん(ブラジル)で、すでに鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターで約2ヶ月の日本語研修を終え、現在、食品工業部で技術研修を受けています。以下に研修生のあいさつを掲載します。



はじめまして。私は、ブラジルの鶴園エリカ(Tsuruzono Erica)です。私はブラジルのリオグランデドスル(Rio Grande do Sul)から来ました。ブラジルのいちばん南にありますリオグランデドスルには日本人は少ないですが鹿児島の人はおおいです。私の両親は鹿児島の人です。鹿児島に来たのは今年の5月です。最初に鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターで8ヶ国から来ている人たち11人と2か月間日本語の研修をしました。そこで毎日、日本語の会話や文法、漢字の書きかた、日本の文化について勉強しました。とてもむずかしいと思いました。特に、日本

ではどの本も漢字で書いてあるのでむずかしいですが、この機会に少しでも覚えていきたいと思えます。

7月から工業技術センターの食品工業部で技術研修をはじめました。食品の腐敗の原因となる微生物の分離・同定、食品や食品添加物の分析法、焼酎や味噌の製造法および評価法について研修しています。

最近ブラジルでも日本と同じように、食品の品質管理が厳しくなっています。この研修期間中に勉強した技術を、ブラジルの食品工場で使っていきたいと思っています。

短い期間ですが、どうぞよろしくお願いします。

## ★ 「さつま工芸会・空港展」の開催

鹿児島ハイテク研究会の一つであるさつま工芸会(会員企業数8社)が、8月1日から12日まで、鹿児島空港2Fロビーにて「一かごしまの工芸—素材でつなぐ仲間たち 制作実演」と題して展示会を開催しました。

会場では、屋久杉製品、薩摩彫金、薩摩切子、薩摩焼、大島紬、薩摩塗り、さつま和紙など、鹿児島を代表する工芸品の展示と制作の実演を行いました。

特に実演コーナーでは季節柄、帰省客や旅行者、夏休みの子どもたちの日に止まり、実際に彫金や紙すきを体験を希望する方が多くみられ、職人の方々と、お国言葉で交流する風景も見られました。

また来る11月11日からは、「第4回 さつま工芸会展 黒潮にのって」と題して、鹿児島市内デパート画廊にて展示会を開催することになっ

ています。今年は、鹿児島に深い恩恵をもたらしてきた「黒潮」にテーマに、各企業が研究してきた作品を展示します。こちらもご期待、ご高覧ください。

